



同友会便り

第253号

平成30年4月1日
〒010-0444 秋田県南秋田郡
大湯村南1-33
株式会社 大湯村同友会
編集責任者 鈴木貫示

春の証



3月も半ばを過ぎますと、当地の雪も溶け、ようやく春になったかとも思うわけですが、風はまだまだ冷たく、雪がないだけで冬も同然の寒さ。はて？本当に春になったのでありましようか。いえいえ信用などでできません。天気には裏切られっぱなしなのです。そこでカメラで撮りためた写真の中から、春の証(あかし)を探してみることといたしました。



(1)白鳥
3月7日撮影の白鳥の写真です。コハクチョウだと思いません。オオハクチョウはくちばしの黄色い部分がもう少し大きく先に伸びています。昨年の11月に当地を通り、南へ渡っていった白鳥も、再び北へ帰る季節になったわけです。大湯村にはほかにガンやカモなどたくさん渡り鳥が飛来します。

(2)フキノトウ
我が家の庭先にフキノトウが生えてきました。そういえばこの場所には昨年フキが生えていたと家人は申します。いつの間にか生えたんでしょうか？フキノトウとは実は花なのです。大きくなるとやがてタンポポの綿毛のような種を付け、風に乗って飛んでいきますので、我が家の庭先に生えたとて不思議でも何でもありません。ここに生えたのも何かの縁、もう少し様子を見て来年以降、増えてきたらまとめて収穫してやるうかと思っております。天ぷらにしてもいいし、酢の物もおいしいんです。
秋田ではバツケと呼びます。隣の青森や山形でも同様の呼び方をするようで、元はアイヌ語であったという説もあります。

(3)ネズミの巣跡
雪に覆われていた田んぼの畦(あぜ)は、実はネズミにとって格好の住み処になっています。夏の間は巣穴があちこち開いているのですが、冬になると畦の上を雪が覆い、外敵からは見えなくなるため、もはややりたい放題のようですね。着々と都市計画を押し進め、ここはおいらと彼女の愛の巣さ、とか言ってるんじゃないか。コンニャロー!! 畦をあまり掘り返すなー!!
春の農作業に畦塗りというのがあります。畦に土を盛って、畦を補強する作業なのですが、これにはネズミの巣穴をふさいで水もれを防ぐという役目もあります。



(4)めでたき春
3月吉日、当会の職員、安田健人クンの華燭の典が催されました。入社して6年め、人当たりが良くまじめで将来有望な好青年のめでたいニュースに同友会一同、たいへん喜んでおります。
なんだか今回はこの話題が一番「春」っぽかったですね。
さて季節は4月になりました。我々農家にとって一年で最も忙しい季節を迎えております。今年も美味しいお米を作りますよー!!。(鈴木貫示)



注意！クマ害多発

いきなりの写真で驚かれたかと思いますが、これは昨年10月8日、北秋田市森吉の小又川沿いの県道を走っている時に、偶然遭遇した子グマを撮影したものです。

蛇行する道のカーブのひつつを曲がったまさかのクマ。車を即座に停車させ、クマの方も立ち止まりこちらをじつと見ておりますので、しばらくくならみ合っておりまして。「カメラカメラ」ととりあえず撮影したのが左の写真なのです。



と車をゆっくり前進させましたら、とたんに山の方へ逃げていってしまいました。

子グマのそばには母グマも必ずいる、とはよく言われることです。この上母グマとも遭遇するのはご免ですので、私もとつと逃げ出すことにしました。

この辺りはクマはいて当たり前地域なので、まあそんなこともあろうかとは思いますが、滅多にそんなところへ行かない私までもが、クマを目撃することになるとは…。

実はクマなんかいないはずの大潟村にもクマは出没しました。東の山間部からはるるやって来るんですね。

昨年9月11日に村内の道路を横切るクマが目撃されまして、そのクマはどうも大潟村を横切り、西隣の男鹿市に安住の地を見つけたようです。お隣の男鹿市もクマは今まで生息していなかったところなので、これまた大騒ぎです。

2頭目の出現は9月30日、稲刈りの真っ最中でした。大潟村の農家が村中に散らばり、作業をしているところへこのニュースでしたから怖かったですね。まあ大潟村の田んぼは、広々として見通しが良いし、騒音を立てながら作業をするコンバインをわざわざ襲ってくるわけもないだろうとは思っておりましてが、それでも気持ち悪いことには変わりありません。

ほどなくしてくだんのクマは大搜索の末に発見され、駆除されたのですが…。

昨年秋田県内でのクマの目撃例は千五百件を優に超え、被害者の数は20人にのぼりました。

山菜やキノコを採取しに山

休業日のお知らせ

2018年 4月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

2018年 5月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

今月・来月の休業日は右の色つき部分となります。

休業日のご注文は留守番電話・FAX・インターネットにて受け付けております。尚、休業日中にご注文頂いたお荷物は、翌営業日に弊社からの発送となります。



へ入る人たちが襲われてもそれはもう覚悟の上。自己責任なんだろうと思いますが、民家や畑の作物、果樹、家畜などを襲うに至っては、やはり異常事態なのかなと思います。車との衝突例も数多かったですし、JR花輪線の普通列車は11月4日と5日、二日続けてクマと接触しました。またこれは岩手県での話ですが、8月14日には、秋田新幹線こまちもクマとの接触事故を起こしております。

7月14日には、国指定遺跡・伊勢堂岱遺跡で北秋田市職員が、7月17日には秋田市の男

環境保護団体の方々は、クマを捕殺するのではなくクマとの共存を考えて、と申されます。しかし、いったん作物や果樹、家畜などの味を憶えてしまったクマは、くり返し人間の近くに出てくるのです。そういうクマとはいったいどうやって共存すれば良いのでしょうか。

もはやクマとは、人間の生活圏に不意に入ってくる存在となりました。そのことを自覚し常に注意しながら生きていくことが「共存」なのかもしれない。

(鈴木貴示)